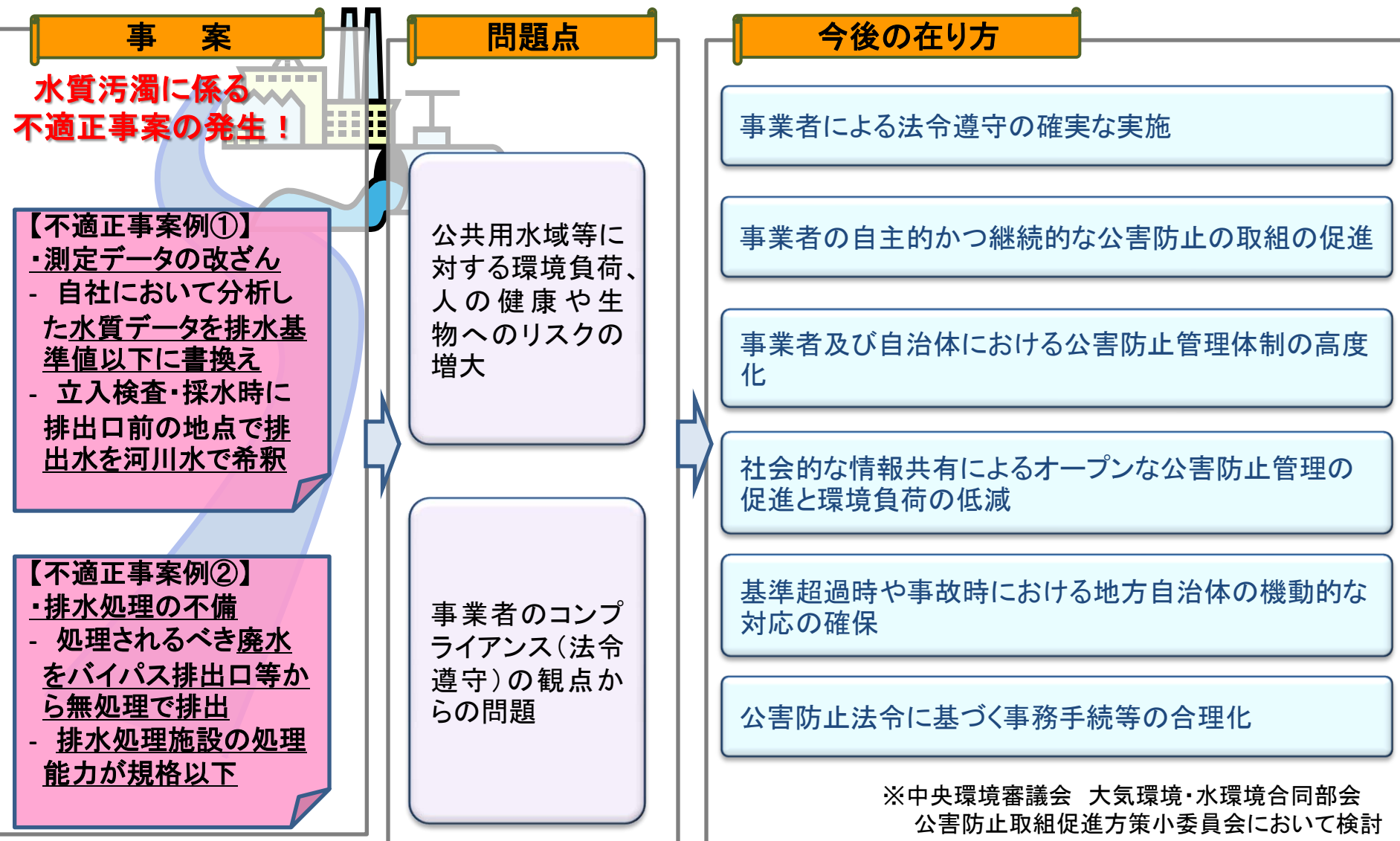


# 5. 水環境保全のための今後の取組 (1)事業者の不適正事案への対応

ここ数年、一部の事業者において、排水基準の超過及び測定データの改ざん等の法令違反事案が相次いで明らかとなり、公共用水域等に対する環境負荷、人の健康や生物へのリスクが増大。事業者のコンプライアンス(法令遵守)の観点からも問題。



※中央環境審議会 大気環境・水環境合同部会  
公害防止取組促進方策小委員会において検討

# 5. 水環境保全のための今後の取組 (2) 水質事故への対応

## 現 状

### 【水質事故の増加】

- ・水濁法に基づく事故(水濁法の特定事業場等での事故)届出件数は10年間で約2倍に増加
- ・全国一級河川における水質事故は10年間で約3倍に増加
- ・水質汚濁に関する公害苦情(約9,000件)の3分の1以上は「流出・漏洩」が原因

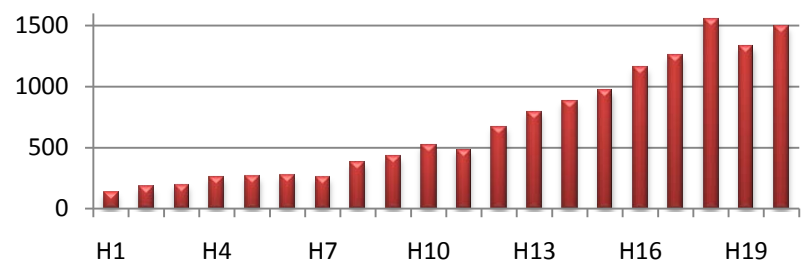


図 全国一級河川における水質事故(件数)  
出典:国土交通省「全国一級河川の水質現況」

### 【水質事故原因の多様化】

- ・水濁法上の特定事業場等以外からの流出・漏洩事故の発生
- ・水濁法上の有害物質以外の化学物質による水質事故の発生

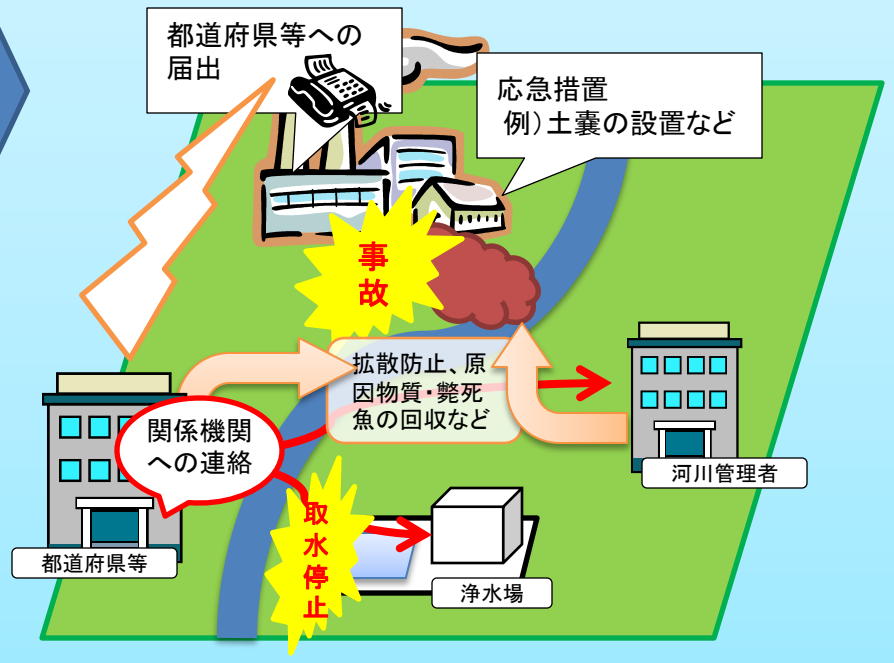
- 汚染が拡散した後の原因究明は困難
- 有効な再発防止措置が困難

## 今後の取組

### 【事故対応・原因究明の迅速化】 ～事故原因者からの届出の促進～

- ・水濁法対象事業者以外への届出義務者の拡大
- ・現行の有害物質、油以外の項目であっても、既に排水規制対象となっている生活環境項目など、人の健康又は生活環境の保全上の支障となる項目等については届出対象とするよう拡大

※中央環境審議会 大気環境・水環境合同部会  
公害防止取組促進方策小委員会において検討



# 5. 水環境保全のための今後の取組 (3)閉鎖性水域における水質改善(湖沼)

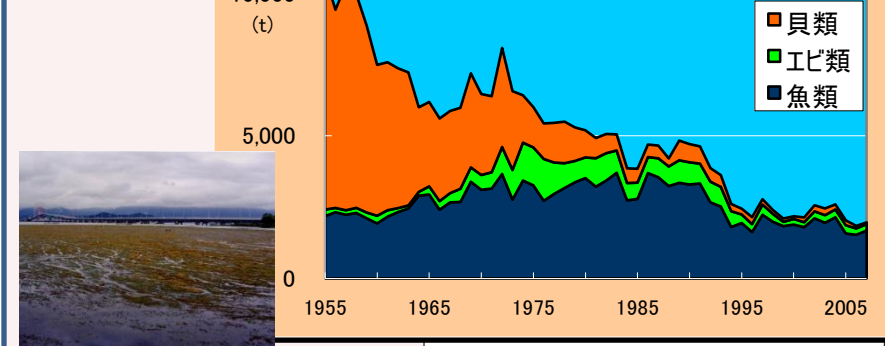
## 現状

湖沼の水質は徐々にではあるが、良くなっているものの、国民の実感に合った、地域の望ましい湖沼には至っていない。

- ①生態系の劣化: 植物プランクトン種の変化、在来種の減少、水草の異常繁茂、漁獲量の低下
- ②利水障害: 異臭味・濾過障害の発生、消毒副生成物等
- ③人との関わりの希薄化: 親水機会の減少、景観の悪化等

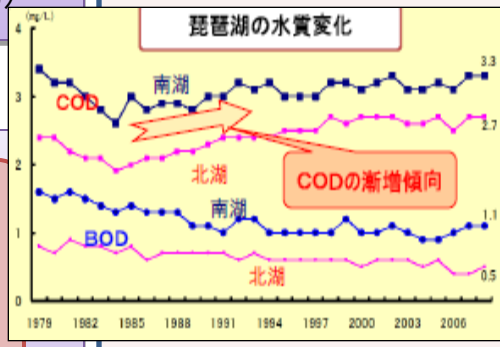
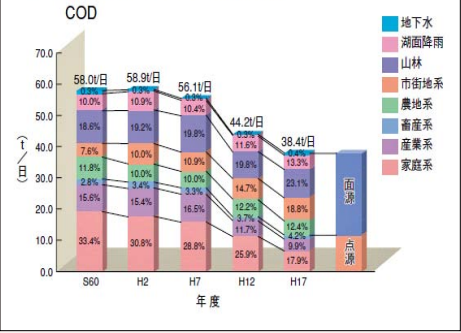
一部の湖沼では、さらなる水質改善が望めない。  
(琵琶湖の下水処理・浄化槽の普及率90%,高度処理普及率83%)

## 湖沼の現状と課題 (琵琶湖の例)



琵琶湖の水草の繁茂

## 琵琶湖の負荷量の経年変化



## 目標設定

**水質保全目標の検討**  
**新たな水質指標**  
 (底層DO、透明度、TOC等)  
**各湖沼の個別指標**  
 (在来種率、漁獲量、湖水浴者数等)

## 原因究明

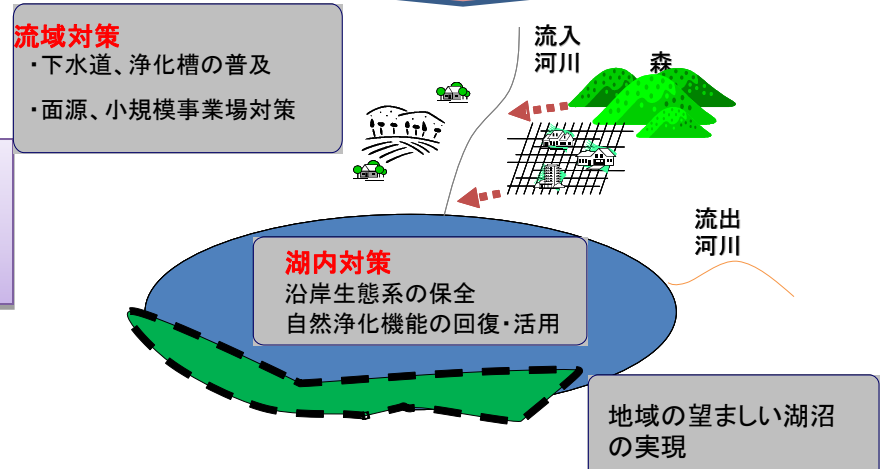
**汚濁メカニズムの解明**

- ・難分解性有機物
- ・N/P比と植物プランクトンとの関係
- ・底質環境
- ・物質収支
- ・流入物質の分析

## 〔新たな水質保全対策の検討〕

- 流域対策(面源対策、小規模事業場対策)
- 湖内対策(沿岸生態系の保全、自然浄化機能の回復・活用)

## 課題の解決



平成23年度の湖沼水質保全特別措置法の見直し

地域の望ましい湖沼の実現